

大阪“みなと”CNP検討会について

(1) 目的について

検討会は、大阪“みなと”におけるCNP形成計画の策定に向けて、関係者の意見を聴きながら、取組状況の情報共有やCNP形成に向けた具体的な取組の検討を深化させることを目的として開催する。

(開催要綱第1条)

大阪港、堺泉北港及び阪南港（以下「大阪“みなと”」という。）において、水素、アンモニア等の次世代エネルギー利活用の需要と供給体制を一体的に創出するとともに、港湾機能の高度化や臨海部における環境に配慮した産業の集積を図る「カーボンニュートラルポート（CNP）」の形成に向け、関係業界（団体・企業）及び有識者等の意見を聴きながら、大阪“みなと”及び全国的な取組状況の情報共有やCNP形成に向けた具体的な取組の検討を深化させることを目的として開催する。

(2) 構成員等について

検討会は、①大阪“みなと”で仕事をしている主な事業者又はその団体、②大阪“みなと”を利用している主な船会社、③環境問題に取り組んでいる事業者のうち、大阪“みなと”で具体的な取組みの意向を示している者、④港湾運営会社、⑤有識者などで構成し、関係行政機関がオブザーバーとして参画して構成する。（開催要綱別表のとおり）

(3) 検討の内容について

検討会における検討内容は、12月に公表された「CNPの形成に向けた施策の方向性」に基づき、大阪港、堺泉北港、阪南港のCNPの形成を目指して行う。また、これらの観点に加えて、①計画期間、目標年次については、政府の温室ガス効果削減目標（短・中期目標2030年度、長期目標2050年度）等を踏まえた設定のほかに、2025年に開催される大阪・関西万博も念頭において検討する。②CNP形成計画の策定主体は港湾管理者であるが、大阪“みなと”全体を俯瞰し、連携した計画を目指した検討を行うものである。

OP HB

Osaka
Ports and
Harbors Bureau

大阪港湾局

Osaka Ports and Harbors Bureau

近畿2,100万人の生活を支え、

発展を続ける大阪の港

PORTS IN OSAKA

大阪港開港150周年

大阪港開港局が設立されました

2020年(令和2年)10月1日に、大阪市と大阪府の連携が統合し、「大阪港開港局」が誕生しました。
大阪・開港局は、世界的な地球規模競争に勝ち抜くため、正日本へのゲートウェイとしての機能強化を図り、国土構造の東西二極の一極として日本の成長を牽引していく必要があり、また、沿河においても、大阪湾の干渉を減らし、広域的な視点から港湾管理の一円化をめざす必要があることから、その両方1スアツとして、大阪府、大阪市の連携、和市民協力を一円化しました。

大阪港開港局では、大阪港と河津港の機能を生かし、開港を機軸のついで、広域で機能分担や協働体制を図り、大阪湾及び沿岸沿河域を「ヒト・モノ・コト」がより一層活躍する拠点として発展させ、安全・安心で良好な生活環境のもと、背後圏にまで魅力を届ける「大阪・関西の経済・産業の核の一翼を担うこと」をめざします。

今後、開港局の連携の一環として、開港局による協力を「港湾」として、開港局の時代に生み残る港湾、「利用者」に選択される「港湾」として、開港局

力を高めるとともに、利用者ニーズに合った使いやすさや快適さに向けて開港局に努めてまいります。

主な取組

- 大阪港と河津港での長年の歴史を踏襲・継承した重慶・創設の歴史
- 開港局の機能強化
- 開港局と河津港の連携強化
- 開港局と河津港の連携強化
- 開港局と河津港の連携強化
- 開港局と河津港の連携強化
- 開港局と河津港の連携強化
- 開港局と河津港の連携強化
- 開港局と河津港の連携強化
- 開港局と河津港の連携強化



大阪港開港局長 田中 利光

大阪港の歴史

大阪港は、古来には任官津、難波津と呼ばれ、朝鮮、中国など大陸との交通の要衝として発達してきました。1868年(慶応4年)に近代港湾として生まれ、本格的な開港工事により経済発展の基盤を築き、日本経済の発展を牽引し、そしてアジア貿易の中心地として栄えました。

また、開港局を創設する旧港湾は、南北開港を基に対岸貿易の中心地となり、その進、口国、フイリピン、ポルトガル等との交易により発展してまいりました。1957年(昭和32年)に開、1961年(昭和36年)に東北の田舎町に工業地帯が造成されると、取扱貨物量は飛躍的に増大し、臨海工業地帯の基盤的港湾として発展しました。

このように大阪港や河津港は、はじめとする大阪湾下の各港は、日本経済の拡大と大規模な発展に呼応して港湾施設を整備・拡充するとともに、港湾機能の向上に、ポートサービスの充実を図ってきました。そして、現在では、年間約16,000万トンの貨物を取り扱い、世界的150の国と地域、約700の港と結ばれる港として年間2,100万人の市民生活を支えています。

大阪港の取扱貨物トンキヤク(2018年)

順位	品名	取扱トン	取扱トン
1	総合取扱	19,659	100%
2	大阪港(河津港)取扱	16,028	81.6%
3	牛乳	15,320	78.6%
4	穀類	11,386	58.0%
5	北米産	10,764	54.8%
6	北米産	10,176	51.8%
7	神戸港	9,154	46.6%
8	大阪港	8,674	44.1%
9	大阪港	8,428	42.9%
10	川崎港	8,109	41.3%
11	堺港	7,272	37.0%

出典：(財)開港局「開港局」開港局150周年記念事業「大阪港の歴史」

堺泉北港〈国際拠点港湾〉



堺泉北港は、北与大阪湾に隣接し、堺市、高石市、泉大津市の3市にまたがる、南北14km、平均約10km、11,740haの港湾区域を有する港です。中世に日南貿易や朝貢貿易で栄えた「堺港」と同様に整備された「泉北港」が前身です。同港は、昭和30年代前半から造成された堺泉北港後工業団地の開発に伴い、工業港として大きな成長を遂げ、1965年（昭和40年）に統合して「堺泉北港」となりました。

現在では、日本有数の中古車輸出拠点として、また、造船やLNGなどのエネルギー供給拠点として、地域の経済活動などを支えています。

その他の港〈地方港湾〉

府内には、特色ある6つの地方港湾があります。

二色港



泉佐野港



泉州港



解港港



淡輪港



深日港（深日地区）・深日港（多奈川地区）



阪南港〈重要港湾〉



阪南港は、岸和田市、貝塚市、恵美町の3市の南北約7kmにわたる2,170haの港湾区域を有する港です。阪南港の前身である旧同港、岸和田港及び貝塚港は、昭和30年代に港湾整備事業が進められ、1968年（昭和43年）には3港を統合して「阪南港」となりました。

現在も旧港の立て直しによる土地形成が進められており、製造業や物流・保健施設等の企業進出が促されています。

クルーズターミナル



天保山遊船ターミナルビル



世界水準の客船ターミナルの整備を進めています

2024年 供用開始（予定）

天保山遊船ターミナル

天保山の「新たな名所」となる観光交流拠点づくり

- クルーズ客船の泊泊は「新築および充実設備への対応」
- クルーズ客の入出客が容易
- クルーズ客の乗降 / 迅速な送迎体制
- にぎわい、観光と連携が図れる
- 日本文化や観光資源の発信
- 観光客の誘引に特化したイベントスペース
- 天保山エリアの発展を後押し
- 観光客と連携する観光案内に特化したサイン
- 観光客の誘引、呼びかけが実現した新たなサイン

大型客船の受入が可能

大船は、港外から、天保山岸壁まで高さの差がないため、大型船の入港が可能です。また、天保山岸壁は大船から母港正面に位置し、一帯に整備することが可能です。

大船泊は、これまで「クワンダム・オプ・ザ・シーズ」「ルウェー・ジャン・ジョイ」「スベのトラム・オプ・ザ・シーズ」等16万噸トン（クワア）が泊り込められる大型客船の受入れが実現しています。

■ 天保山岸壁



スムーズなターナーアワード

大船泊は、開港後の港への優れたアクセス、高い安全性、そして、スムーズな出入国手続きやターナーアワードの獲得としても評価です。

統計データ

大阪港

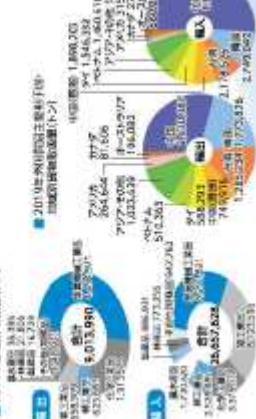
■ 取扱貨物量

年次	取扱貨物量（千トン）				合計
	内訳	輸出	輸入	通関	
2017	259	2,526	3,450	2,785	8,020
2018	1,990	3,571	3,170	2,205	6,936
2019	875	3,041	2,021	1,709	6,646
2020	792	2,463	3,254	1,526	6,035
2021	792	2,463	3,254	1,526	6,035

■ 外国コンテナ取扱量（TEU）

年次	取扱量（千TEU）		合計
	輸出	輸入	
2017	439,247	1,111,050	2,000,006
2018	440,543	1,100,635	2,000,076
2019	449,311	1,167,699	2,176,510

■ 2019年取扱貨物量（千トン）



府営港湾

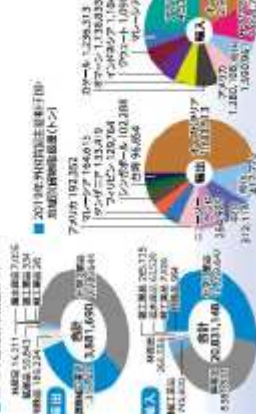
■ 取扱貨物量

年次	取扱貨物量（千トン）				合計
	内訳	輸出	輸入	通関	
2017	452	2,555	2,853	2,769	8,629
2018	11	97	150	1,008	1,266
2019	31	427	378	1,532	2,368
2020	15	2,003	2,497	1,791	6,316
2021	15	2,003	2,497	1,520	6,115

■ 外国コンテナ取扱量（千TEU）

年次	取扱量（千TEU）		合計
	輸出	輸入	
2017	117,964	113,221	231,185
2018	13,500	73,877	87,377
2019	14,879	12,863	27,742

■ 2019年取扱貨物量（千トン）



※取扱貨物量は、港湾法第4条の2に基づき、

事務所一覽

A 大阪港湾局



大阪メトロ中央線
コスモスクエア
トレードセンター前
大阪府庁舎
アジア太平洋トレードセンター
〒559-0034 住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟10階
☎06-6615-7704 (代表)

B 第2突堤事務所・港湾防災センター



大阪湾
大阪メトロ中央線
海岸通2丁目
海岸通3丁目
港湾防災センター
第2突堤事務所
〒552-0022 港区海岸通3-4-28
☎06-6572-2674 (代表)

C 鶴町事務所



至 なみはや大橋
鶴町小学校
鶴町2丁目
鶴町南公園
鶴町4丁目
大運橋
鶴町事務所
〒551-0023 大正区鶴町2-20-47
☎06-6568-9091 (代表)

D 泉州港湾・海岸部 (旧大阪府港湾局)



新港町
西港町
泉州港
海岸部
〒595-0055 泉大津市なぎさ町6-1 泉州北港ターミナルビル10階
☎0725-21-1411 (代表)

G 阪南建設管理課 (旧阪南港湾事務所 深日出張所)



阪南建設管理課
(旧阪南港湾事務所 深日出張所)
深日港
高海多摩川橋
新加太港橋
〒599-0303 堺市深日3493
☎072-492-2025



E 堺泉北建設管理課 (旧堺泉北港湾事務所)



三宅町
大和川
山本町
堺泉北建設管理課
(旧堺泉北港湾事務所)
〒590-0981 堺市堺区塩浜町
☎072-238-5241 (代表)

F 阪南建設管理課 (旧阪南港湾事務所)



岸和田市
大北町
岸和田市
阪南建設管理課
(旧阪南港湾事務所)
〒596-0014 岸和田市湯緑町4-10
☎072-439-5261 (代表)

申請手続きの受付窓口を拡大

これまで府市で別々であった港湾施設の使用許可等の申請手続きについて、上屋、荷さばき地等の使用許可継続更新申請を、相互の窓口で受け付けます。

また、利用者ニーズや施設の空き状況など、4ヶ所の窓口で府市港湾全体の情報提供を行い、利用者サービス向上を図っていきます。

※令和2年10月1日時点では、第2突堤事務所及び泉州港湾・海岸部 (旧大阪府港湾局) でのみ受付します。

利用者等 ← 継続更新申請手続き [最寄り事務所 (※) 可] → 各港の状況を情報提供

窓口・情報提供の拡大

- 第2突堤事務所
- 泉州港湾・海岸部 (旧大阪府港湾局)
- 堺泉北建設管理課 (旧堺泉北港湾事務所)
- 阪南建設管理課 (旧阪南港湾事務所)

事務所間の連携を強化

- 府市相互の港湾施設の継続更新申請手続きを取り扱い、所管する事務所へ書類を転送
- 港湾施設の使用状況などを共有し、利用者へ情報提供